就職活動を振り返って
『自分も世の中も変化する、未来へ繋ぐ経験の価値』

READYFOR 株式会社 IT 推進部 部長
若林 岳人（CS17）

この度は寄稿の機会をいただき、ありがとうございます。まず初めに私の経歴を簡単に紹介させて頂くと、私は 2014 年にシステム情報学研究科の修士課程を修了致しました。卒業後は、日本電気株式会社（NEC）及び PwC コンサルティング合同会社にて、中央省庁や大企業を顧客とした IT コンサルティング・システム導入 PJ に携わった後、スタートアップ企業である株式会社メドレー及び現在在籍している READYFOR 株式会社にて、社内 IT を導入・活用促進する立場で働いています。また現職在籍中には、デジタル庁で兼業させて頂いた時期もありました。

恐らく経歴をみて、「この人、転職しすぎじゃない？」と思われた方も多くいらっしゃるのではないでしょうか。終身雇用の終焉が叫ばれて久しいとはいえ、確かに多いと思います。

私自身、まさかここまで職を転々とすることになるとは、就職活動をしていた学生当時は想像だにしなかったですし、ポジティブに捉えれば常に転職市場に身を晒してきた就職活動マニアと言えるかもしれません。そんな私からは、少し変わったキャリアで得られた知見を、これから就職活動を控える皆さんに伝えられればと思います。

振り返ると大学生時代は、学部で 1 留していたり、内部の大学院試験に一度落ちて補欠枠で研究室に入れて頂いたりと、神戸大学教員の皆様には大変お世話になりました。また、自身の研究や就職活動においても、望んでいたような成果を出し切れず、お世辞にも順風満帆な大学生生活だったとは言えないと感じています。

このような学生生活を送っていた私ですが、ご縁もあって入社させて頂いた NEC の新卒研修で、大きく心境の変化を感じることがありました。それは、「学部卒の同期と 3 歳年が離れている」という事実からくる焦りです。もちろん、就職面接で大学院での研究内容や留年のことを話していましたし、入社前からその差を見られていることは分かっていたつもりだったのですが、いざ 400 人を超える同期と同じ内容の新卒研修を受ける環境に身を置くと、この 3 年の違いを示せないとすぐに優秀な人材の中に埋もれていってしまうと強く感じるようなりました。新卒研修終了後、官公庁が庁内で利用する情報システム導入 PJ を技術的に支援する部隊に配属されましたが、そこでも諸先輩方と一緒に仕事をする中で技術的な知識の差に驚愕し、いい意味で焦りが加速したと思います。その焦りをモチベーションに変えて、プライベートの時間を使って積極的に自己学習や社外の勉強会に参加することで、しっかりと知識をつけていくことができました。この焦りをきっかけに、ただ自己学習するだけでなく社外のコミュニティに目を向けられたのは非常に良かったと思っています。IT の世界は OSS の存在に代表されるように、組織を超えた情報共有が非常に活発ですが、そういった場に早い段階で足を運んだことで、ただ学習が捗るだけではなく、組織内部に留まらないキャリア形成の可能性に目を向けるようになりました。

そこからは冒頭で経歴紹介したように、何度か転職・兼業を繰り返しながら今の職に就いています。それぞれの転職の背景を書いていくと全く収まらなくなるので、共通するポイントを 3 つ伝えられればと思います。

まず一つ目ですが、「実際に働いてみると見えてくる景色が変わる」です。前述した通り、学生時代の就職活動もやりきったという感じではなかったわけですが、社会人 10 年間、様々な職場・職種で働いた今でも、日々新しい気づきばかりです。学ぶことを続けていれば物事の捉え方が変わってくるのは自然なことですし、変わった中で自分が取り組みたいと思えることに全力を注げる場所を継続的に探すことが重要だと思います。決して一度きりの就職活動と捉えずに、長いキャリアの中で常に自分と向き合い続けて欲しいです。

次に二つ目ですが、「社会情勢・市場環境も変動する」です。私が就職活動をしていた当時、スタートアップ投資も今に比べるとあまり活発ではなかったこともあり、新卒の就職先として選ぶ人はかなり少なかったと思います。一方で、大手銀行が 1,000 名を超える新卒一括採用を行っていたりと、今の情勢と全く異なる状況にあったと思います。その後、様々な社会情勢や市場の変化があって、今全く異なる様相を見せているわけですが、これからも変わっていくことが普通なので、あまり「今」に囚われすぎないようにして欲しいです。

最後に三つ目ですが、「一つ一つの経験が繋がってくる」です。スティーブジョブズの有名なスピーチでもあった内容ではありますが、真剣に向き合った一つ一つの経験は決して無駄にはなりません。私のキャリアでも新卒で中央省庁のシステムを経験したことが、官と民の有り方を考えるきっかけになり、今の仕事につく大きなきっかけにもなっています。また大学の研究で行き詰って統計的アプローチを試行錯誤していたのが、今流行りの AI 開発・活用に活きていたりもします。勿論、当時はそんなことを考えていたわけではないですが、その場その場で直面している問題に真剣に向き合って得られる経験は一生ものだと思います。

最後になりますが、これからの就職活動は、一度の選択に終わらない長い旅です。実際に初めての就職活動を目前にすると、どうしてもそちらに意識が持っていかれてしまうと思います。もちろん、就職活動に取り組むことは重要ですが、今皆さんの目の前にある学生生活や研究でしか得られない経験も多くあるので、その機会を大切にしてください。自分自身と向き合い、成長する機会として捉えてください。そして、どんな道を選んでも、その一歩があなたの未来を切り開くことを忘れないでください。